

農学部正門前の旧中仙道から少し入った閑静な住宅街に
子供たちの歓声が響く。ここは文京区立第一幼稚園。
日本で最も由緒ある幼稚園のひとつだ。

119年目の幼児教育。

文京区立第一幼稚園

文京区立第一幼稚園の開園は、はるかに明治20年(1887)まで遡る。誠之小学校内に幼稚園室が設けられたのがその始まりで、初代園長は当時小学校の校長が兼務した。白髭をたくわえた平野長徳園長の肖像が同園の110周年記念誌に載っている。

明治30年(1897)、幼稚園室は園舎を設けて誠之小学校附属幼稚園となり、大正10年(1921)に東京市本郷区第一幼稚園として独立。さらに昭和22年(1947)、文京区立第一幼稚園と改称され今日に至っている。同窓生の数は、

一万二千人を超えるという。

現在、同園の園長を務める齊藤美代子先生は18代目。「げんきな子ども」「やさしい子ども」「つくりだす子ども」を教育方針に5人の保育者と66名の幼児たちの保育にあたる。

歴代の園長の写真を前に119年の歴史の重みについて問いかけると、齊藤先生は「過去の重みよりも現在の期待の方が重いかもしれませんね」と穏やかに語った。同園に寄せられる地域の期待や同窓生の信頼に応えていくのは並大抵の仕事ではない。

子どもたちを健やかに育む秘訣として、齊藤先生は「砂場遊びでもなんでも、全身で子どもといっしょになつて遊ぶことが大事」と

話す。大人と肌を接して転げ回することで、子どもたち

はいやな思いを忘れ、心と体の健康を取り戻す。「保護者の方にも泥粘土で遊んでもらうことがあるんですよ」と齊藤園長は言う。「親も遊びの楽しさを知ってほしいです。でも、泥粘土を壁にぶつけ自分たちも思いきり楽しむところまではなかなかいきません。」

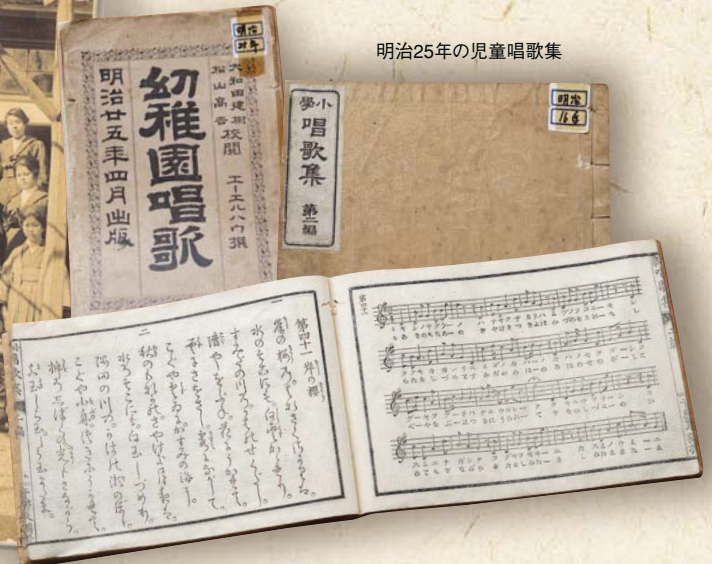
天気のいい日など、同園の園児たちは農学部のキャンパスを通過して三四郎池まで散歩に出かけることがある。なにか農学部へのご要望はと訊くと、齊藤先生は嬉しそうに「学生さんたちが子どもたちと遊んでくださるといいですね」と微笑む。子どもたちのためというよりもむしろ、研究に忙しい日々を送る学生たちのために、という意味に聞こえた。



文京区立第一幼稚園 第18代園長
齊藤美代子先生



大正14年の園児たち



明治25年の見童唱歌集